

今日の主人公

「私の四国御遍路の旅」

(有) 舟木米穀店
代表取締役

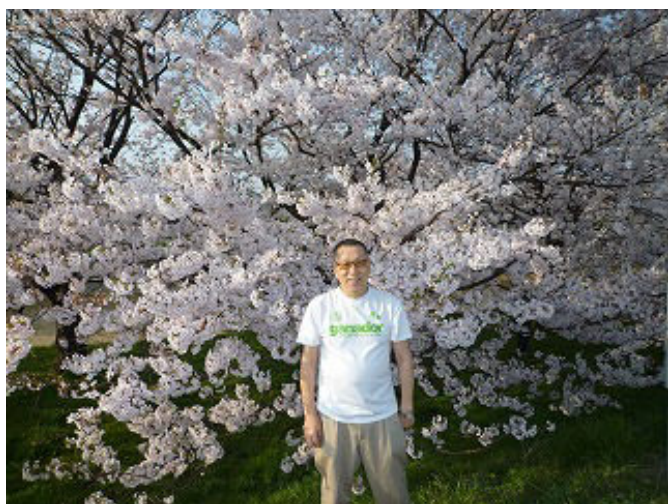
舟木 博君

私達は旅行者として偶然に白装束の歩く人の姿を見だのは、気の重い長旅の車中の出来でした。あれから約10年が過ぎ、現在1周1200kmとも1400kmとも言われている四国道3周日を歩き続けています。例年、私は桜の訪れを待っての花遍路と、遅い紅葉の秋遍路年2度に分け、1回に10日程度の日程で計6回のべ3年で四国1周しておりました。きっかけは、友人の誘い掛けでした。

人生に落胆し落ち込んでいた姿を遠くから察してくれたのか、一人での歩き遍路に誘って下さいました。お遍路は様々な人との出会いでもあり、老若男女を問わず、目的を持ってひたすら歩き続ける人、目的もなく何かを探し求めて歩いている人、単に車での観光やトレッキングを楽しむ為の人、きっかけや方法は様々有りますが、そこでの全ての出会いは偶然では無く必然で有り、何かに導かれていると思うしか無い素晴らしい出会いを与えてくれました。

又、四国の地理・歴史・風俗・祭・特産物などが道々に溢れ、1200年の長きにわたって培われた御接待の風土を感じながら歩く道々に、菅笠と白衣と金剛杖の姿は時代を超えて風景に溶け込んでいきます。歩きは次第に道々での気付きを生み、歩き疲れた心と身体は無我の境地に近づき、いつしか煩惱を消し去り、般若心経の世界に歩みを踏み入れていきました。初めてのお遍路は、ただガムシャラに先を急いで道を間違えてしまったり、その目泊る宿が取れなかったり、靴擦れで足に豆が出来て水がたまったり、足が腫れて痛かったり、ろくに納経も出来ずに戸惑ったりと色々な思い出がありましたが、不思議と辛いとか苦しいとか感じなく唯ひたすら歩き続けていました。二日目からは少し余裕が出来てスケジュール表を作り途中から史跡・名所に立ち寄る事も可能になりました。

又、長い間会っていなかった四国出身で大学時代の旧友や四国のロム青年会議所時代の友人達との再会、そして、お遍路途中の道すがらのロータリークラブの例会参加、その他多くの新しい人との出会い、それらの全てが人生に潤いをもたらしています。今では春が来ますと身体がムズムズして早く四国へ行きたくなるのがわかります。これを人呼んで、お四国病と呼ぶそうです。又、食生活でも毎年、春夏秋冬の四国の産品を取り寄せたり送って頂いたりして楽しんでおります。ちょっとした、きっかけから始まった四国参りですが、まだ区切り打ちしかしておらず、もっと時間が取れるようになったら、一度で全行程を約50日程度で歩く通し打ちをしたいと思っております。



桜 - 舟木



友人



今治城と桜



雲辺寺おたのみなす



本山寺七十番札所



お参り光景



十二番寶壽寺



舟木会員お遍路姿



花壇と桜



弥谷寺 七十一番

